

第3章 史跡指定の状況

第1節 史跡指定の概要

1 指定に至る経緯

棚倉城は江戸幕府成立初期の不安定な政治情勢の中で、特殊な軍事・政治的な状況の中で築城され、幕府の安定により政治的・軍事的地位の低下によって、寛永期築城の形態を残している数少ない中小大名の居城遺構であり、最大の特徴は、深い堀と大土塁に囲まれた長方形単郭の本丸跡と、その土塁上にある二重の隅櫓と、それを繋いで全周する長大な多門櫓にある。二ノ丸西面に残る石垣は、自然石主体の布積み崩しとされ、文禄・慶長初期の織豊系城郭にみられる古式の様相を持つ点が特徴とされ、それは丹羽家が持っていた伝統的な石垣の知と地域の石材環境に適応した技術の選択によった結果と評価されている。

追手門跡付近には近代以降、東白川郡役所や営林署などの行政機関の建物が建てられ、本丸跡には農産学校が建てられるなど、引き続き行政の中心として利用されてきた。その後、本丸跡では昭和30年代まで棚倉競輪の会場や小学校の運動会の会場として利用されるなど、町民にとってかけがえのない場所であり、憩いの場所でもあった。

東日本大震災により二ノ丸西面に遺る石垣の一部が崩落したことを契機に、町民のシンボルである棚倉城跡の保存への関心が高まり、商工会を中心にした保存を目的とした動きも見られる。町ではパンフレットの作成や講演会を開催する等、棚倉城についての理解の深化に取り組んでいる。また、震災の復興を願ったキャンドルナイトも本丸跡を利用して開催されている。棚倉城跡は都々古別神社が鎮座していた時代から現在まで、町民の心性に欠かすことの出来ない場所でもある。

当町では平成23年(2011)から28年(2016)にかけ、国史跡指定を目指して、発掘調査、測量調査、文献調査、絵図調査等を実施した。その調査成果をもとに棚倉城跡を保存活用していくため、平成30年(2018)7月23日に史跡指定意見具申書を提出した。文化審議会において審議が行われ、平成30年11月16日に史跡指定の答申がなされ、これを受け、文部科学省により平成31年2月26日付けで告示がなされた。

2 指定告示

- ・ 名 称 棚倉城跡（たなぐらじょうあと）
- ・ 種 別 史跡
- ・ 指定基準 二. 都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡
- ・ 官報告示 指定年月日 平成31年(2019)2月26日（告示第20号）
- ・ 所 在 地 福島県東白川郡棚倉町大字棚倉字城跡地内
- ・ 指定面積 66,999.94㎡
- ・ 所有関係 民有地 2,730.69㎡

町有地 64,269.25㎡
・管理団体 棚倉町 令和元年（2019）10 月 10 日 （告示第 990 号）

3 指定説明文とその範囲

棚倉城跡は、江戸時代前期に築城された城跡であり、福島県東白川郡棚倉町の中心市街地、八溝山を源流とする久慈川が作り出した河岸段丘上の平坦面に所在する。棚倉は常陸国と境を接する陸奥南端の要衝地であり、中世には白河結城氏、会津蘆名氏、常陸佐竹氏等による勢力の交替があり、棚倉市街地の北約 1 km に位置する赤館城が政治軍事の拠点であった。関ヶ原の戦いの後佐竹氏が秋田に移られると、慶長 8 年（1603）、立花宗茂が棚倉藩主となり、現、棚倉城跡付近に屋敷を構えて政務を執ったとされる。宗茂は元和 6 年（1620）、筑後国柳川へ転封となり、同 8 年、常陸国江戸崎藩主の丹羽長重が 3 万石を加増され、5 万石をもって棚倉に入封した。

長重は寛永元年（1624）9 月、赤館城の改修を幕府に願い出たが、より適地への築城を指示され、近津明神（馬場都々古別神社）の社地であった現、棚倉城跡の場所を選定、同明神を西郊に移転させ、同 2 年正月より普請を開始した。棚倉城築城の背景には、伊達、上杉、佐竹といった有力外様大名がひしめく奥羽への対策が江戸幕府として依然重要であり、そのため奥羽の玄関口に位置する棚倉に丹羽長重を配して新規築城を行わせたと推測される。長重は普請途中の寛永 4 年、白河へ転封となり、近江国長浜から内藤信照が入封し、引き続き城の造営や城下の整備を行った。その後、城主は太田氏、越智松平氏、小笠原氏、井上氏、松井松平氏、阿部氏と変遷したが、いずれも徳川譜代か親藩の家柄であって、幕府の要職に就く者が多かった。水戸街道が城下を走る陸奥南部の境域として重視されたためと考えられる。

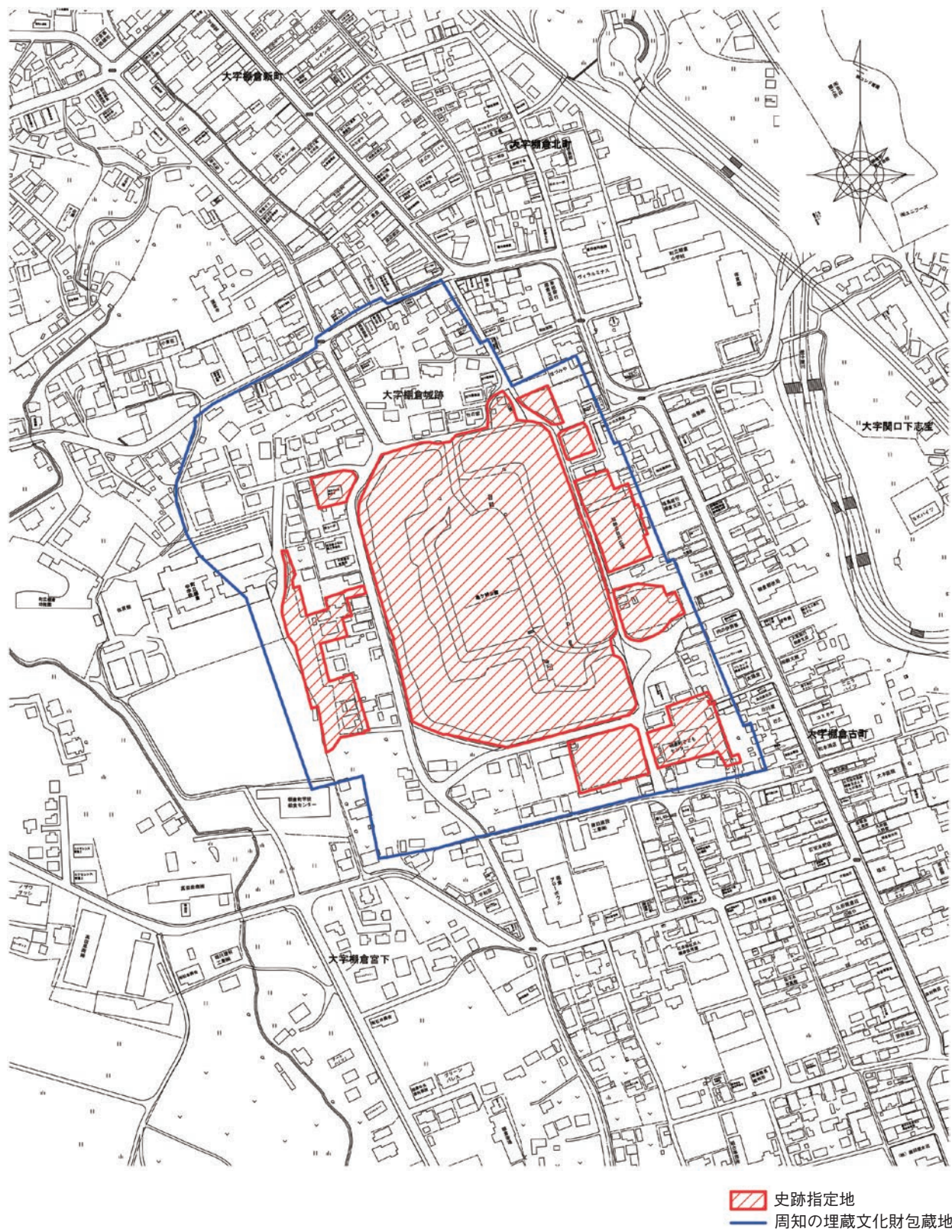
幕末の慶応 2 年（1866）、白河から 10 万石で入封した阿部正静は、戊辰戦争において奥羽越列藩同盟に加わり新政府軍と戦い、攻撃を受けた棚倉城は落城した。近代以降、東白川郡会議事堂・東白川郡立農蚕学校が置かれ、また、二ノ丸堀の埋め立て、土地の払い下げ等によって城跡は変貌を遂げたが、現在、本丸を中心に往時の姿をとどめ、都市公園として利活用されている。

棚倉町教育委員会では、棚倉城跡の価値を明らかにするため、平成 23 年度から 28 年（2016）に発掘調査、測量調査、文献調査、絵図調査等を実施した。棚倉城の縄張りは、巨大な土塁と水堀で区画される長方形の本丸と、それを取り巻く二ノ丸、その北西の三ノ丸（林曲輪）からなる輪郭式の構造である。本丸内は東西約 60 m、南北約 73 m の規模で、周囲の土塁は本丸内から比高約 6 m、幅約 7 m（基底部約 30 m）、南北 2 箇所に枡形虎口を設ける。幅 36 m 前後の堀を含めた本丸の規模は東西約 150 m、南北約 360 m の規模で、本丸同様に水堀と土塁がめぐり、東側に開く追手門ほか 4 門を設けていた。近代以降、二ノ丸堀は埋め立てられ、土塁も削られたが、現在も北辺部に約 50 m 分の土塁が残る。二ノ丸西側の崖部には棚倉城で唯一とされる石垣が延長約 160 m（高さ約 3 m）にわ

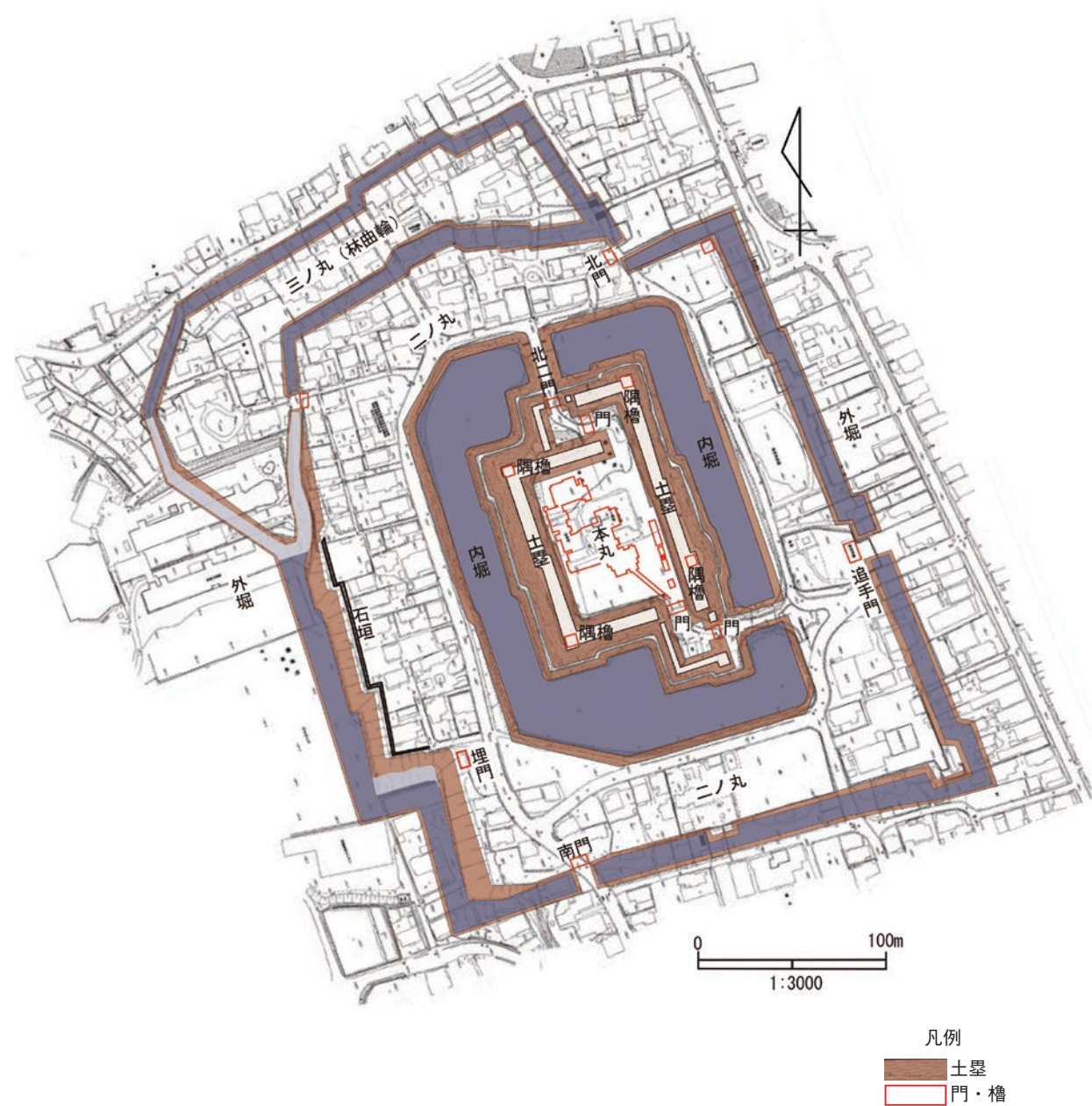
たり鉢巻状に築かれている。本丸の内部には藩主御殿が造営され、土塁上には二重隅櫓 4 棟、一重隅櫓 1 棟が建てられ、各櫓間が多門櫓により連結し、その総延長は 204 間（約 367 m）と東北地方の城郭では随一の規模である。

本丸土塁の発掘調査では、多門櫓の礎石を確認し、戊辰戦争時と思われる焼土や被熱した土壁材が出土した。同西土塁の調査では、多門櫓の規模（梁行 4.1 m）、隅櫓の礎石を確認した。二ノ丸石垣の積み方は、本石垣は自然石主体の「布崩し積み」で、一部には大型の石材（鏡石）を散在させる意匠的な積みが見られ、文禄・慶長初期の織豊系城郭に見られる古式の様相をもつが、石垣面を平らかにするハツリも見受けられる等、元和から寛永期の平面性の高い石垣を意識して構築したものと評価される。正保城絵図をはじめとする絵図調査の比較等から、築城当初の基本的な城郭構造が幕末まで維持され、近代以降の改変はあるが、城跡が良好に残存していることが判明した。なお、二ノ丸南門が棚倉町内の長久寺に移築され現存する。

このように、棚倉城跡は、寛永年間に棚倉藩主となった丹羽長重によって築城され、その後も親藩・譜代大名の居城となり幕末に至った城跡である。江戸時代前期における江戸幕府の奥羽政策や、寛永期の築城形態のありようを理解する上で貴重であることから、史跡に指定して、その保護を図ろうとするものである。（『月刊文化財』平成 31 年（2019）2 月号）



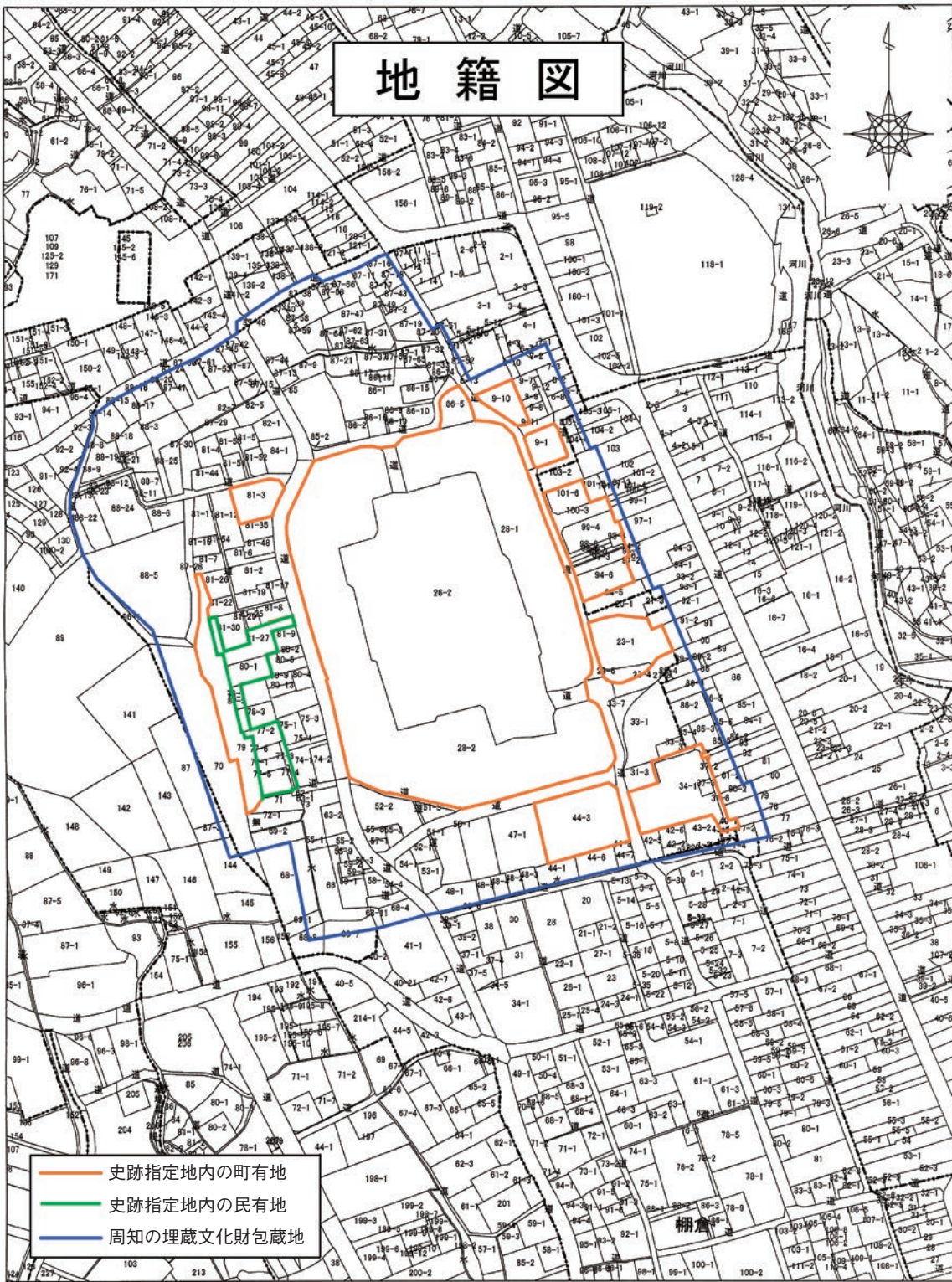
第4図 史跡指定範囲図



第5図 推定遺構図

3 指定地の状況

棚倉城跡の指定範囲は第 6 図の通りである。その面積は 66,999.94㎡を測る。そのうち、町有地は 64,269.25㎡で約 96％となっている。



第 6 図 棚倉城跡地籍図

第 5 表 指定地内の地番と面積

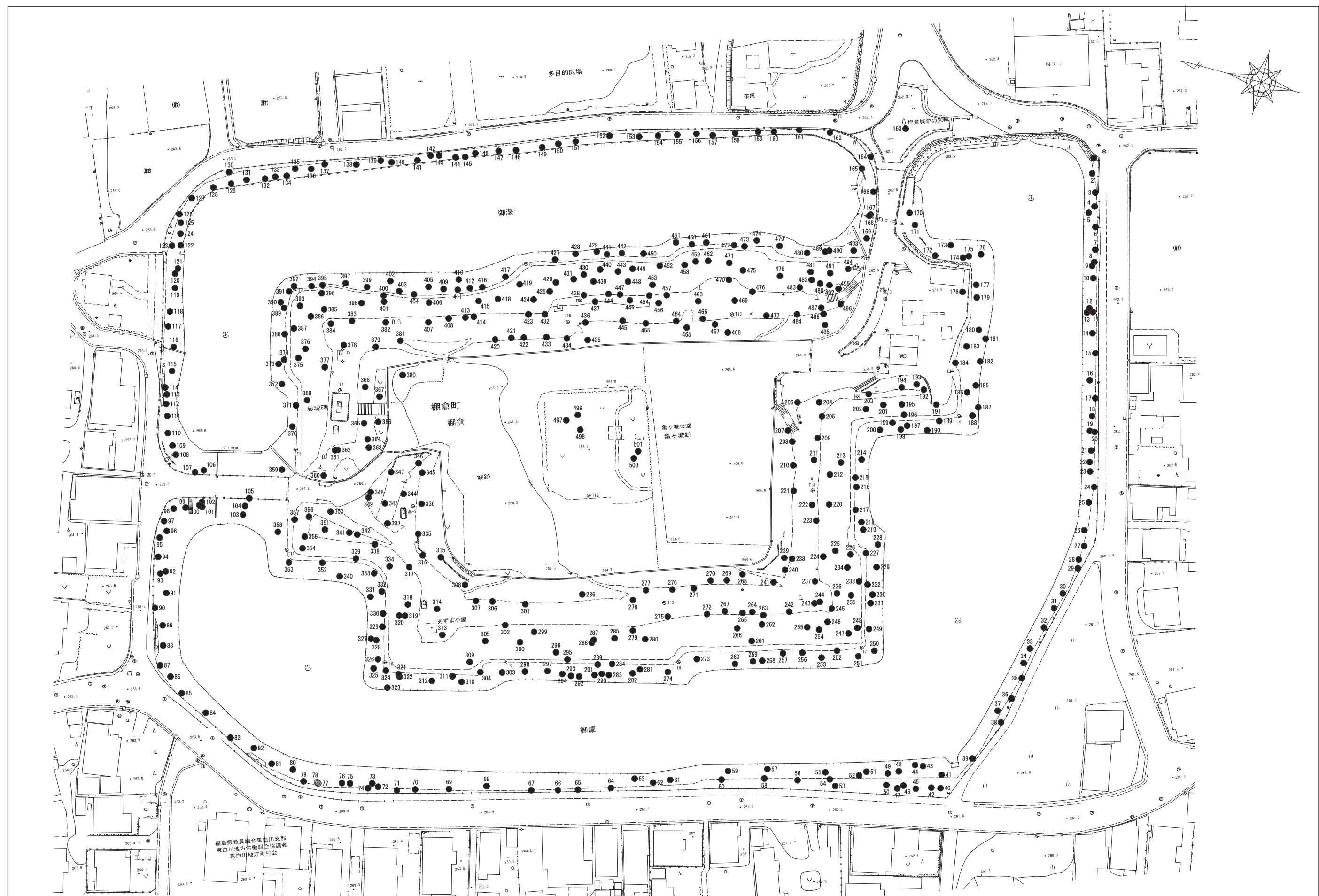
地番		面積(㎡)	地目	所有	備考
東白川郡棚倉町 大字棚倉字城跡	76-1	85.19	宅地	個人	登記面積 357.55㎡、81.42㎡、383.47㎡のうち 実測 85.19㎡
	76-2			個人	
	80-3			個人	
	77-1	178.91	宅地	個人	登記面積 432.32㎡のうち実測 83.96㎡
	77-2	357.3	宅地	個人	
	77-3	108.00	公衆用道路	個人	
	77-5	391.56	宅地	個人	
	77-6	178.78	宅地	個人	
	78-3	83.96	宅地	個人	
	80-1	491.20	宅地	個人	
	81-27	721.35	宅地	個人	
	81-30	134.44	宅地	個人	
	9-1	641.00	雑種地	棚倉町	平成14年に棚倉町に譲与
	9-10	663.00	雑種地		
	23-1	1747.86	宅地		
	23-6	302.00	公衆用道路		
	26-2	19587.00	公園		
	31-1	133.00	雑種地		
	31-6	84.38	宅地		
	34-1	2385.56	宅地		
	37-2	63.27	宅地		
	37-3	94.39	宅地		
	40-1	92.14	宅地		
	44-3	2749.53	宅地		
	77-4	31.00	公衆用道路		
	79	2250.00	学校用地		
	81-3	878.67	宅地		
	86-5	561.23	宅地		
東白川郡棚倉町 大字棚倉字古町	94-6	737.38	宅地		
	97-3	294.63	宅地		
	98-3	37.99	宅地		
	98-4	67.63	宅地		
	98-5	106.98	宅地		
	98-6	107.01	宅地		
	98-7	106.99	宅地		
	99-4	764.59	宅地		
	100-3	515.74	宅地		
東白川郡棚倉町 大字棚倉字城跡	28-1	9079.00	ため池		平成14年に棚倉町に譲与
	28-2	19002.00	ため池		平成14年に棚倉町に譲与
東白川郡棚倉町大字棚倉字城跡28-1の西から28-2の東		336.69	法定外道路		
東白川郡棚倉町大字棚倉字城跡28-1の南から28-2の北		346.73	法定外道路		

第2節 棚倉城跡の植生

棚倉城跡が国指定史跡となった翌年の令和2年(2020)3月、棚倉城跡の本丸跡内と本丸堀周辺の植生調査を実施した。調査は、区域内の樹種およびその幹回・樹高、枯れ・腐朽などの現況を診断した。調査を実施した範囲では、501本を記録した。平均樹高が9.2m、幹回が123cmであった。また、調査木の約2.1%の11本が枯れ、約25.1%の126本が半枯れ、約2.3%の12本が腐朽と判定された。これらを合わせると全体の約30%(149本)が倒木、枝折れ等の危険性が高い状態にある結果となった。健全と判定された調査木は352本であった。



第7図 棚倉城跡航空写真



第8図 棚倉城跡植生現況図

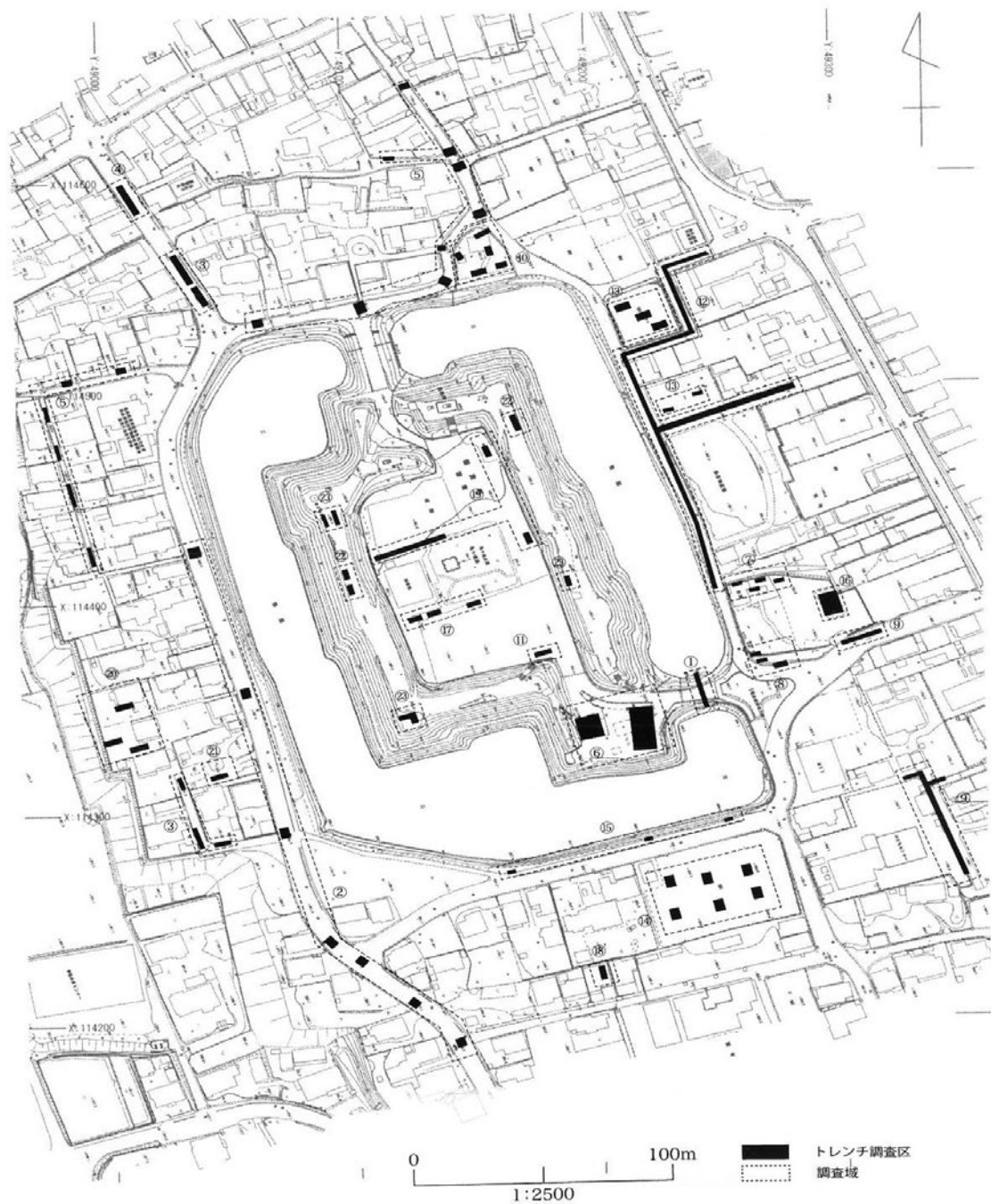
樹木調査一覧表

番号	樹 種	幹回 (cm)	樹高 (m)	備 考	番号	樹 種	幹回 (cm)	樹高 (m)	備 考	番号	樹 種	幹回 (cm)	樹高 (m)	備 考	番号	樹 種	幹回 (cm)	樹高 (m)	備 考	番号	樹 種	幹回 (cm)	樹高 (m)	備 考	番号	樹 種	幹回 (cm)	樹高 (m)	備 考		
1	ソメイヨシノ	143	8		101	ソメイヨシノ	50	6		201	アカマツ	147	11		301	ソメイヨシノ	182	13		401	アカマツ	203	17								
2	イロハカエデ	118	9		102	ソメイヨシノ	119	5	半枯れ	202	ソメイヨシノ	190	13	半枯れ	302	イロハカエデ	132	9		402	イロハカエデ	93	9								
3	ソメイヨシノ	204	10	腐れ	103	ケヤキ	310	19		203	イロハカエデ	187	9		303	イロハカエデ	64	6		403	イロハカエデ	70	11								
4	ソメイヨシノ	219	6	半枯れ	104	イロハカエデ	87	9		204	ソメイヨシノ	260	8	半枯れ	304	イロハカエデ	56	5		404	イロハカエデ	145	13								
5	ケヤキ	44	6		105	クロマツ	165	23		205	ソメイヨシノ	111	8		305	ソメイヨシノ	203	13	半枯れ	405	ソメイヨシノ	169	14	半枯れ							
6	ソメイヨシノ	75	6	腐れ	106	ソメイヨシノ	175	12	半枯れ	206	シダレザクラ	132	8		306	ソメイヨシノ	52	9		406	ソメイヨシノ	125	13								
7	ソメイヨシノ	53	5	腐れ	107	シダレザクラ	166	13	半枯れ	207	ソメイヨシノ	130	11		307	ソメイヨシノ	55	7		407	コウヤマキ	198	24								
8	ソメイヨシノ	77	5	半枯れ	108	ソメイヨシノ	70	6	半枯れ	208	ソメイヨシノ	65	7		308	ソメイヨシノ	186	12		408	ソメイヨシノ	180	8	半枯れ							
9	イロハカエデ	47	6		109	ソメイヨシノ	84	7	半枯れ	209	ソメイヨシノ	94	8		309	ソメイヨシノ	220	15	半枯れ	409	イロハカエデ	100	9								
10	イロハカエデ	118	7		110	ソメイヨシノ	130	7	半枯れ	210	ソメイヨシノ	330	8	半枯れ	310	イヌザクラ	158	14		410	イロハカエデ	108	8								
11	ソメイヨシノ	162	5	半枯れ	111	ソメイヨシノ	72	7	半枯れ	211	シダレザクラ	55	6		311	イロハカエデ	52	7		411	ソメイヨシノ	154	15								
12	イロハカエデ	43	5		112	シダレザクラ	170	7	半枯れ	212	ソメイヨシノ	160	10	半枯れ	312	ケヤキ	160	16		412	ソメイヨシノ	102	14								
13	イロハカエデ	78	5		113	シダレザクラ	150	8	半枯れ	213	ソメイヨシノ	57	7		313	ソメイヨシノ	150	7	半枯れ	413	ソメイヨシノ	59	7								
14	イロハカエデ	96	7		114	ソメイヨシノ	160	6	半枯れ	214	ソメイヨシノ	206	14		314	サウラ	309	25		414	アカマツ	208	16	腐れ							
15	ソメイヨシノ	156	5	半枯れ	115	ソメイヨシノ	210	7	半枯れ	215	イロハカエデ	103	13		315	ソメイヨシノ	40	4	半枯れ	415	ソメイヨシノ	94	12								
16	ソメイヨシノ	151	5	半枯れ	116	シダレザクラ	200	11	半枯れ	216	イロハカエデ	101	13		316	ソメイヨシノ	212	13		416	ソメイヨシノ	186	15								
17	ソメイヨシノ	76	5		117	イロハカエデ	57	5		217	イロハカエデ	171	14		317	ソメイヨシノ	70	7		417	イロハカエデ	56	6								
18	ソメイヨシノ	153	5	半枯れ	118	シダレザクラ	38	4		218	ソメイヨシノ	190	14		318	ソメイヨシノ	295	15		418	イロハカエデ	118	12								
19	ケヤキ	42	6		119	ソメイヨシノ	115	7	半枯れ	219	イロハカエデ	77	11		319	ソメイヨシノ	215	14	半枯れ	419	ソメイヨシノ	120	15								
20	ソメイヨシノ	92	8		120	イロハカエデ	58	6		220	ソメイヨシノ	42	6		320	ソメイヨシノ	42	6		420	ソメイヨシノ	83	9								
21	ソメイヨシノ	290	12	半枯れ	121	ヌルデ	70	6		221	ソメイヨシノ	93	7		321	ソメイヨシノ	110	11		421	ソメイヨシノ	75	9								
22	イロハカエデ	25	3		122	ソメイヨシノ	105	8	半枯れ	222	シダレザクラ	41	6		322	イロハカエデ	30	4		422	クロマツ	116	16								
23	ソメイヨシノ	144	10		123	ソメイヨシノ	166	9		223	ソメイヨシノ	170	8	半枯れ	323	コナラ	92	13		423	ソメイヨシノ	175	7	腐れ							
24	ソメイヨシノ	75	9		124	ソメイヨシノ	74	6	半枯れ	224	ソメイヨシノ	221	15		324	イロハカエデ	40	4		424	ソメイヨシノ	194	15								
25	ソメイヨシノ	94	8	枯れ	125	ソメイヨシノ	88	5	半枯れ	225	ソメイヨシノ	168	14		325	イロハカエデ	123	10		425	ソメイヨシノ	173	15	半枯れ							
26	ソメイヨシノ	45	6		126	ソメイヨシノ	60	5		226	イロハカエデ	30	6		326	イロハカエデ	66	6		426	イロハカエデ	108	10								
27	ソメイヨシノ	203	13	半枯れ	127	ソメイヨシノ	60	5		227	イロハカエデ	173	12		327	イロハカエデ	50	5		427	イロハカエデ	70	6								
28	ケヤキ	22	4		128	ソメイヨシノ	60	6		228	イロハカエデ	73	7		328	イロハカエデ	129	10		428	イロハカエデ	65	6								
29	ソメイヨシノ	62	6		129	ケヤキ	32	5		229	ソメイヨシノ	127	8	半枯れ	329	ソメイヨシノ	48	9	枯れ	429	ケヤキ	45	6								
30	シダレザクラ	248	15		130	ソメイヨシノ	195	7	半枯れ	230	ソメイヨシノ	130	8	枯れ	330	ソメイヨシノ	51	7	枯れ	430	イロハカエデ	87	9	半枯れ							
31	イロハカエデ	67	6		131	ソメイヨシノ	102	5	半枯れ	231	ソメイヨシノ	155	10	枯れ	331	イロハカエデ	151	8		431	イロハカエデ	114	10								
32	ケヤキ	31	4		132	ソメイヨシノ	105	5	半枯れ	232	イロハカエデ	51	5		332	ソメイヨシノ	55	8	半枯れ	432	ソメイヨシノ	131	9	腐れ							
33	ケヤキ	295	17		133	ソメイヨシノ	90	6	半枯れ	233	ソメイヨシノ	120	11		333	イロハカエデ	46	4		433	ソメイヨシノ	174	11	半枯れ							
34	ソメイヨシノ	247	14	半枯れ	134	ソメイヨシノ	103	7	半枯れ	234	シダレザクラ	121	11	半枯れ	334	ソメイヨシノ	33	6		434	ソメイヨシノ	170	11	半枯れ							
35	ソメイヨシノ	55	5	半枯れ	135	ソメイヨシノ	122	10	半枯れ	235	ソメイヨシノ	141	12		335	ソメイヨシノ	187	10		435	イロハカエデ	45	5								
36	シダレザクラ	32	4		136	ソメイヨシノ	113	5	半枯れ	236	ソメイヨシノ	198	10	半枯れ	336	ソメイヨシノ	42	5		436	ソメイヨシノ	91	11								
37	ケヤキ	145	15		137	ソメイヨシノ	58	5		237	ソメイヨシノ	85	8		337	ソメイヨシノ	132	13	半枯れ	437	ソメイヨシノ	89	10								
38	イロハカエデ	155	12		138	イロハカエデ	70	5	半枯れ	238	ソメイヨシノ	76	7		338	イロハカエデ	158	9		438	ソメイヨシノ	62	4								
39	ソメイヨシノ	280	14	半枯れ	139	イロハカエデ	60	5		239	ケヤキ	78	8		339	ソメイヨシノ	62	8	半枯れ	439	ソメイヨシノ	64	5	半枯れ							
40	ソメイヨシノ	99	8		140	ソメイヨシノ	198	8		240	イロハカエデ	80	8		340	イロハカエデ	46	6		440	イロハカエデ	34	5								
41	ソメイヨシノ	246	10	半枯れ	141	ソメイヨシノ	142	7		241	イロハカエデ	110	7		341	ソメイヨシノ	251	16	半枯れ	441	イロハカエデ	42	6								
42	ソメイヨシノ	126	10		142	イロハカエデ	48	4		242	ソメイヨシノ	93	7		342	イロハカエデ	72	7		442	イロハカエデ	56	6								
43	イロハカエデ	46	5		143	ソメイヨシノ	50	4	半枯れ	243	ソメイヨシノ	53	6		343	エゴノキ	61	8		443	イロハカエデ	53	7								
44	ケヤキ	285	18		144	シダレザクラ	123	6	半枯れ	244	ソメイヨシノ	75	7		344	イロハカエデ	156	6		444	クロマツ	173	22								
45	ソメイヨシノ	88	10		145	シダレザクラ	175	7	半枯れ	245	ソメイヨシノ	76	8		345	ケヤキ	392	14		445	ソメイヨシノ	83	12								
46	イロハカエデ	53	4		146	イロハカエデ	65	5		246	ソメイヨシノ	28	6	半枯れ	346	ソメイヨシノ	200	11	腐れ	446	ソメイヨシノ	85	13								
47	ソメイヨシノ	71	7	半枯れ	147	ソメイヨシノ	105	6	半枯れ	247	ソメイヨシノ	72	9	半枯れ	347	ケヤキ	142	19		447	アカマツ	218	18								
48	イロハカエデ	70	6		148	ソメイヨシノ	190	8	半枯れ	248	ソメイヨシノ	62	8	枯れ	348	イロハカエデ	73	8		448	ソメイヨシノ	59	11								
49	ソメイヨシノ	235	13	半枯れ	149	ソメイヨシノ	165	6	半枯れ	249	イロハカエデ	60	5		349	イチヨウ	270	20		449	ソメイヨシノ	73	13								
50	ツゲ	52	3		150	ソメイヨシノ	130	7	半枯れ	250	ケヤキ	243	16		350	ソメイヨシノ	71	11	半枯れ	450	イロハカエデ	51	5								
51	イロハカエデ	31	4		151	ソメイヨシノ	135	6	半枯れ	251	イロハカエデ	80	6		351	イロハカエデ	138	10		451	イロハカエデ	96	7								
52	イロハカエデ	52	11		152	ソメイヨシノ	180	5	半枯れ	252	イロハカエデ	38	5		352	ソメイヨシノ	178	13	半枯れ	452	ケヤキ	327	17								
53	アカマツ	182	16		153	ソメイヨシノ	182	6	半枯れ	253	イロハカエデ	68	6		353	コナラ	195	14		453	イロハカエデ	124	12								
54	アカマツ	172	17		154	ソメイヨシノ	78	6		254	ソメイヨシノ	134	10		354	イロハカエデ	53	6		454	クロマツ	141	18								
55	コナラ	36	4		155	ソメイヨシノ	142	6		255	イロハカエデ	50	5		355	ソメイヨシノ	144	15	半枯れ	455	ソメイヨシノ	166	11	半枯れ							
56	ソメイヨシノ	118	10		156	ソメイヨシノ	76	6		256	イロハカエデ	47	4		356	ソメイヨシノ	250	14	半枯れ	456	ソメイヨシノ	87	12								
57	イロハカエデ	70	7		157	ソメイヨシノ	135	6	半枯れ	257	ソメイヨシノ																				

第3節 発掘調査の概要

1 発掘調査歴

これまでの発掘調査歴・出土遺物等については第9図・第10図および第6表の通りである。このうち、平成17年度に行われた調査では、追手門の礎石6基が検出された。



第9図 棚倉城跡発掘調査箇所一覧

第 6 表 棚倉城跡発掘調査歴一覧

発掘地点	実施期間	調査地	調査面積	遺構	遺物	絵図による比定	備考	報告
①	平成5(1993)年2月15日	大字棚倉字城跡26-2	30㎡	土橋	なし	土橋(内堀)		-
②	平成9(1997)年9月9日～平成10(1998)年1月13日	大字棚倉字城跡地内(町道)		堀跡、ピット、溝状遺構、住居跡。カマド	近代陶磁器片、土師器片	二の丸	・棚倉城の施設と考えられる堀跡,南門の施設と考えられる溝状遺構を検出。	-
③	平成10(1998)年8月20日～25日	大字棚倉字城跡85他(町道)	18㎡	土坑	近世陶器片	二の丸		-
④	平成10(1998)年12月1日～10日	大字棚倉字城跡87他				三の丸		-
⑤	平成11(1999)年8月24日～9月8日	大字棚倉字中居野33		なし	なし	三の丸		-
⑥	平成12(2000)年9月4日～10月27日	大字棚倉字城跡26-2	120㎡	土坑、ピット、溝状遺構、建物跡	木材、近代陶器片、瓦片	本丸		-
⑦	平成14(2002)年3月15日	大字棚倉字城跡23-1,28-1,28-2,33-1	30.35㎡	なし	なし	二ノ丸		-
⑧	平成14(2002)年3月20日～27日	大字棚倉字城跡23-1	30㎡	なし	なし	二の丸		-
⑨	平成15(2003)年1月31日～2月20日	大字棚倉字古町90,23-1,23-4,31-1,31-6,37-2	立会	なし	なし	外堀	・道路工事による破壊のため、遺構を確認できなかった。	-
⑩	平成15(2003)年5月19日～29日	大字棚倉字城跡86-5	46.35㎡	土坑 ピット	なし	二の丸		-
⑪	平成15(2003)年10月1日	大字棚倉字城跡26-2		土塁	なし	本丸		-
⑫	平成15(2003)年10月15日～平成16(2004)年1月31日	大字棚倉字古町105-3,105-5,104-4,103,103-2	320㎡	なし	なし	外堀	・外堀外輪部を確認。部分堀幅約18m。	-
⑬	平成16(2004)年7月12日～26日	大字棚倉字古町97他		なし	なし	二ノ丸		-
⑭	平成17(2005)年5月19日～5月27日	大字棚倉字城跡44-3	150㎡	土坑、ピット、溝状遺構、排水口跡	なし	二の丸		-
⑮	平成17(2005)年6月27日	大字棚倉字城跡地内	5.44㎡	なし	なし	二の丸		-
⑯	平成17(2005)年11月15日～30日	大字棚倉字城跡23-1	50㎡	礎石	銭貨(寛永通宝)	追手門(二ノ丸)		※1
⑰	平成25(2013)年3月11日～3月29日	大字棚倉字城跡26-2	24㎡	なし	なし	御殿(本丸)	・表土約15cm下で焼土検出。	※2
⑱	平成25(2013)年7月26日	大字棚倉字城跡48-2,48-4	11.84㎡	なし	なし	外堀		※2
⑲	平成25(2013)年12月16日～平成26(2014)年1月23日	大字棚倉字城跡26-2	20㎡	配石、土塁、土坑	近代遺物、瓦、木炭	本丸	・本丸平場と土塁構築土の境を確認。 ・土塁土留石とみられる配石を確認。	※2
㉔	平成27(2015)年7月1日～8月12日	大字棚倉字城跡76-1,76-2,78-3,80-3	28㎡	配石遺構、柱穴	かわらけ	二の丸	・石垣裏込めを確認	※3
㉕	平成27(2015)年9月24日～10月16日	大字棚倉字城跡75-1	10㎡	なし	なし	二の丸		※3
㉖	平成28(2016)年2月15日～3月31日	大字棚倉字城跡26-2	44.8㎡	礎石、抜き取り痕	土壁材、和釘	本丸	・多門櫓の礎石を確認	-
㉗	平成28(2016)年6月27日～8月31日	大字棚倉字城跡26-2	25.6㎡	礎石、抜き取り痕	土壁材、和釘	本丸	・多門櫓及び隅櫓の礎石を確認	-

※1：藤田直一2009「棚倉城追手門跡調査の概要」『福島考古』50号 福島県考古学会p.171～174

※2：棚倉町教育委員会編2014『棚倉城跡Ⅰ』 棚倉町教育委員会

※3：棚倉町教育委員会編2016『棚倉城跡Ⅲ』 棚倉町教育委員会

注：①～⑯の調査については、城跡周辺整備事業、下水道工事業に伴う立会、消防屯所建設に伴う試掘調査である。
⑰～㉓は本丸及び二ノ丸内の保存目的の試掘・発掘調査である。



追手門礎石



多門櫓礎石①



多門櫓礎石②



隅櫓（二重櫓）礎石



出土遺物

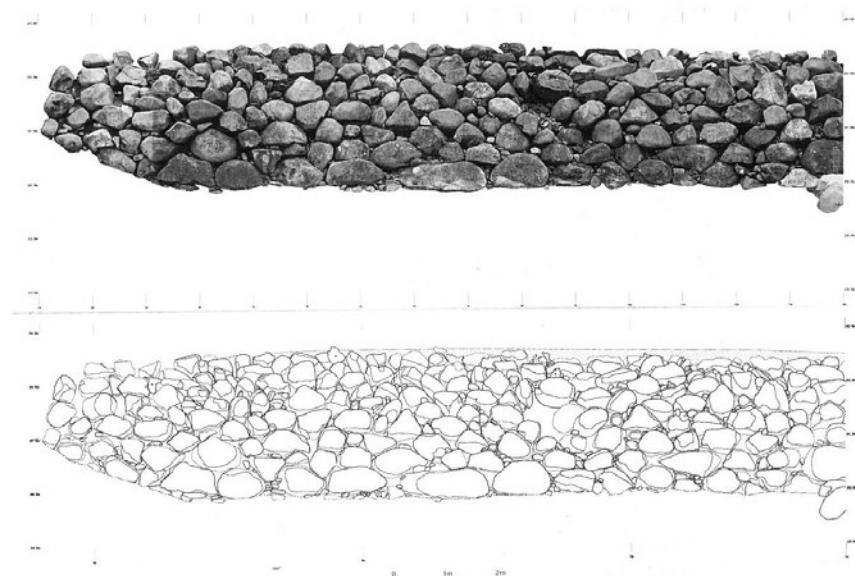


現地説明会

第 10 図 棚倉城跡発掘調査出土遺物・遺構

2 石垣及び土塁の測量調査

平成 23 年（2011）3 月 11 日に発生した東日本大震災により、二ノ丸西側の石垣が 2 箇所崩落した。このため、棚倉町教育委員会では棚倉城跡の保存に対する町民の意識の高まり、また文化庁と福島県との協議により、国庫補助を得て必要な調査を平成 24 年度より実施した。また、棚倉城跡の周知の埋蔵文化財包蔵地範囲について、地形測量・図化作業を行った。



第 11 図 石垣写真測量図

3 保存目的の範囲確認調査

国庫補助を得て行った確認調査の調査成果は以下の通りである。

第Ⅰ次調査（平成 25 年（2013）3 月 11 日～29 日）

老朽化した町立図書館の解体工事に伴い試掘調査が必要となったことが調査の原因である。当該地は、江戸時代の絵図（学習院大学蔵『陸奥国棚倉藩主・華族・阿部家資料』のうち「棚倉城請取渡当日御着座之間并出役之図」）によれば本丸御殿に当たることから、建物遺構の残存状況を把握し、町立図書館の解体工事の方法を検討する資料を得る目的で試掘調査を実施した。調査は、町立図書館の南側に東西方向に 3 本のトレンチを設定して重機で調査した。結果として当該地については、建物遺構は発見されなかったが、表土から約 15cm で焼土が検出された。検出された焼土は広範囲に広がっていることから大規模な火災の痕跡と考えられ、戊辰戦争によるものと判断された。

本丸跡については、明治以後から現在まで様々な用途に利用され、遺構の破壊も進んでいると考えられてきたが、調査の結果から棚倉城の遺構が比較的良好に遺されていることが判明した。このような調査結果から、町立図書館の解体工事に際しては、上屋部分のみを解体することとして、基礎解体については時期を見て行うこととした。

第Ⅱ次調査（平成 25 年（2013）7 月 26 日）

調査の原因は、当該地の土地所有者が住宅建設を計画したことによる。住宅建設工事予定内の 1 箇所にトレンチを設定し調査を行った。

第Ⅲ次調査（平成 25 年（2013）12 月 16 日～平成 26 年（2014）1 月 23 日）

調査の原因は、当町が町立図書館解体工事に伴い、街路灯設置工事を計画したことによる。当該地は本丸内にあることから、建物等の遺構の有無を確認するために試掘を実施した。街路灯設置工事予定内の 3 箇所にトレンチを設定し調査を行った。結果として、本丸平場土塁構築土の境を平面で確認することができた。

棚倉城跡石垣付近ボーリング調査（平成 27 年（2015）3 月 20 日～3 月 31 日）

棚倉城跡の地下地盤資料を得ることを調査目的とし、ボーリング調査を行った。結果として、全体的にほぼ均一な砂質土類で、風化砂岩類の二次堆積物と判定された。調査地点では基盤層である風化砂岩層は確認されず、周辺は段丘堆積物が比較的深く堆積する地域と判断される。

第Ⅳ次調査（平成 27 年（2015）7 月 1 日～8 月 12 日）

調査の原因は、本土地所有者が当該箇所の家屋取り壊しを計画したことによるものである。当該地は棚倉城二ノ丸石垣の上部にあることから、町教育委員会では、詳細な遺跡の状況を把握し今後の対応を図る目的で、試掘調査を実施することとした。調査の結果、柱穴が 3 基検出された。また石垣に伴う裏込め石も確認された。遺物は地山の漸移層よりかわらけ片が出土、他に陶磁器片や瓦片も出土したが、こちらが近代から現代までの耕作土中からの出土となっている。

第Ⅴ次調査（平成 27 年（2015）9 月 24 日～10 月 16 日）

調査の原因は、本土地所有者が当該箇所の家屋取り壊しを計画したことによるものである。当該地は棚倉城の範囲内であることから、棚倉町教育委員会では、詳細な遺跡の状況を把握し、今後の対応を図る目的で試掘調査を実施した。調査の結果、遺構は検出されず、遺物は表土層から出土した陶磁器片のみである。

第Ⅵ次調査（平成 28 年（2016）2 月 15 日～3 月 31 日）

棚倉城跡調査計画に基づき、今後の城跡保存に活用するため年次計画による学術調査を実施した。調査目的は正保年間（1645～48）に作成された『奥州棚倉城之図』等に描かれている本丸土塁上の多門櫓の確認である。14 号トレンチと 15 号トレンチより多門櫓の礎石が確認された。また、礎石が確認された暗褐色土層には焼土が混じっており、被熱した土壁材も出土している。これは、戊辰戦争の兵火で焼けたと思われる廃材（土壁材）を含む火災処理の土を利用し、戊辰戦争以後に盛土・整地されたものと推測される。また、同じ層からは和釘も出土している。

第Ⅶ次調査（平成 28 年（2016）6 月 27 日～8 月 31 日）

棚倉城跡調査計画に基づき、今後の城跡保存に活用するため年次計画による学術調査を実施した。本調査は平成 27 年度本丸土塁上多門櫓確認調査の追加調査として、多門櫓の

規模と隅櫓（二重櫓）の礎石確認を目的として実施した。調査成果として、新たに多門櫓の規模（4.1m）を確定し、櫓の平面プランが分かり、礎石の高さもよく揃っていた。このことは土塁の盛土施工が丁寧に行われていたことの証左とみられる。また礎石列には抜き取り等の修理の痕跡がほぼないこと、戊辰戦争時と想定される火災痕が残ることから、多門櫓の平面プランが創建から幕末まで基本的に変わらず維持されてきた可能性が高いとみなされる。そして、4基存在したとみられる隅櫓（二重櫓）の1箇所を調査し、ここでも具体的な礎石の姿を確認した。

・主な調査履歴、報告書

平成 23 年度 二ノ丸西側石垣の測量調査（東日本大震災に伴う緊急調査）

平成 24 年度 試掘調査・本丸跡地形測量調査

平成 25 年度 試掘調査・本丸跡土質調査

平成 26 年度 二ノ丸跡石垣調査・土質調査

平成 27 年度 本丸跡・二ノ丸跡試掘調査

平成 28 年度 本丸跡補足調査

平成 25 年度 「棚倉町埋蔵文化財報告書 23 棚倉城跡 I」 福島県棚倉町教育委員会

平成 26 年度 「棚倉町埋蔵文化財報告書 24 棚倉城跡Ⅱ」 福島県棚倉町教育委員会

平成 27 年度 「棚倉町埋蔵文化財報告書 25 棚倉城跡Ⅲ」 福島県棚倉町教育委員会

平成 28 年度 「棚倉町埋蔵文化財報告書 26 棚倉城跡」 福島県棚倉町教育委員会

4 城絵図・城下絵図の調査

平成 26 年より、考古学的な見地のみではなく、文献資料を含めた他分野からのアプローチにより棚倉城の歴史・構造を明らかにすることを目的に、絵図調査を実施している。町が所蔵している城絵図・城下絵図及び訪問調査を行った絵図をまとめたのが、第 7 表である。

第7表 城絵図・城下絵図→覧①

No.	名称	所蔵先	景観年代	作成年代	時代	寸法	構成要素	作成目的	形態	絵図の特徴	備考(伝来・状態・年代の根拠など)	絵図内の墨書	参考文献・webサイト等
1	奥州棚倉城之絵圖	国立公文書館内閣文庫蔵	正保年間(1644-48)	正保年間(1644-48)	内藤豊前守信照	東西152cm×南北215cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)、武家地、町人地、南御殿、寺社、河川、山、街道	幕府の命により全国一斉に提出	鋪	折り重んだ表面の中央に「奥州棚倉城之絵圖」、その右に「内藤豊前守」と墨書、左側に「改二十八、七十六の朱書。図の東南隅に「奥州棚倉城之図／内藤豊前守」の墨書。	いわゆる正保城絵圖。	凡例書…「本丸機数五」「本丸門数二」「本丸井戸数四」「二丸丸…」「本丸大番所」「番所」、二ノ丸…「二ノ丸」「御所長屋」「大番所」「番所」「土蔵」「武具蔵」「傳馬鋪」「埋門」「用屋敷」「京所」「米蔵」「鑓」、南御殿…「茶屋」、奉行所…「寺社…」「城下…」「江」「江戸口、河川…」「江」「山…」「江」「	『よみがえる日本の城17』(学習研究社、2005)にカラー図版あり。 藤田直一「棚倉城跡」「城を守るもの 堀と土塁-城絵圖の考古学-」第4回北日本近世城郭検討会、2005)内表-1。
2	奥州棚倉城図 (『日本古城絵図』所載)	国立国会図書館蔵	元禄12年(1699) -宝永2年(1705) 以降	元禄12年(1699) -宝永2年(1705) 以降	内藤豊前守式信	東西106.6cm×南北134.0cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)、武家地、町人地、南御殿、寺社、河川、山、街道、支道	不明	鋪	表題は図中南東部裏の題書きより。「日本古城絵図」第13巻東山道之部所載。「日本古城絵図」は旧鳥羽藩主稲垣家旧蔵。全355面のうちの資料が剥離多し。 年代は鑑料があるため元禄12年(1699)以降、さらに光徳寺があるため内藤氏時代の宝永2年(1705)以前。 「裏師」は年代判定に關連するが?常念仏、三十三観音も。	国立国会図書館ホームページ内デジタルコレクション「別20-1-184」		
3	(棚倉城絵図、 「日域諸城図」 所載?)	小田原城天守閣	寛文年間?	不明	不明	不明	不明	不明	不明				
4	陸奥棚倉 (『諸国当城之図』所載)	広島市立図書館浅野文庫蔵	寛文12年(1672) -宝永2年(1705) までの間	寛文12年(1672) -「諸国当城之図」成立までの間	内藤氏	不明	本丸、二ノ丸、城下、寺社、道、河川、山、	軍学用	鋪	丸みを帯びた河川に直線的な城の輪郭線が特徴。 向來統制の軍学用絵図が多数あり、その中で最も古いものか。その多くに「茶畑(花畑)」「北ノ丸」「江戸街道」が記載され、南御殿が描かれてない。 安藤寺を「安藤寺」と略記。 のちの下町の地に「新町」の記載。	原田佐善編「浅野文庫所蔵 諸国当城之図」(新人物往来社、1982年)	本丸…「大木有」、二ノ丸…「工小や」「土」「ホリ」「ハタ」「二太杉在」「クラ」「北ノ丸」、南御殿…「畑」、奉行所…「アキ地」、城下…「江」、河川…「ソボウカ川」「大草川」「二エビノキ川」云 「町タへ掛ル小川也」、山…「江」「江」、道…「江戸陸道」「水戸海道」「奥海道」「五ヶノ坂」云「江」	
5	陸奥国棚倉城 (『南部八戸藩文書』カ)	不明	小笠原時代以前	延享5年(1746)以降	小笠原佐藏守長森	不明	本丸、二ノ丸、城下、寺社、道、河川、山、	不明	鋪	彩色。表題は内題より。 ヤフー・ガーグン・ヨロに飯壳屋歴あり。ページ間の商品説明には、「南部八戸藩文書、裏打ち最あり。江戸期のものである。」	http://aucview.aucafen.com.yahoo/m10779810/4/	内題…「陸奥国棚倉城 慶長」 年一万石立花築」 (中略)延享三年ヨリ小笠原内膳長森居之、本丸…「本丸」、二ノ丸…「二之曲輪」「丸」「茶畑」「埋門」、三ノ丸…「三之曲輪」「森」、城下…「厩」「水、寺社…」「明神」、道…「江戸」 「水戸口」「奥州道」、河川…「ホヤカ川」「大」 「川」、山…「八幡山」「愛宕山」	
6	奥州棚倉	八幡長三氏(八幡文庫)蔵	小笠原時代以前	小笠原時代以前	小笠原佐藏守	不明	本丸、二ノ丸、城下、寺社、道、河川、山、	不明	鋪	表題は内題より。 絵図の北西隅部分に「八幡文庫」の角朱印あり。	『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』(棚倉町教育委員会社会教育課、1980)の表紙図版。	内題…「奥州棚倉 小笠原佐渡殿」、二ノ丸…「花圃」、寺社…「天満宮」、道…「江戸街道」「仙台道」、河川…「ラボウカ川」「家中町中江掛ル小川也」、山…「八幡山」、	

7	奥州棚倉 (「京大本」主図 合結之記」所 載)	京都大学附 属図書館蔵 新資料蔵	小笠原 時代、文 化6年 (1809 年)カ 年)以前	文化6年 (1809 年)カ 年)以前	小笠原 佐渡守 長義	東西 25.5cm	本丸、二ノ 丸、城下、 寺社、道、 河川、山、	軍学用	卷子本 一枚	41に似る。 本丸のみ間数を記す。 墨書が少ない。 歴代棚倉城主の名を書き連ねる。 東方向角を上部とする。	彩色。表題は内題より。 作成年代は「文化己巳」より。 甲州出身の軍学者、山縣大武 (1725－67)の著とされる絵図集 成、「主図合結記」の写本の一つ か。	内題…「奥州棚倉 慶長六年一 万石 後移筑州柳川 立花飛騨 守宗茂(中略)文化己巳当主六 万石 同佐渡守長義」、本丸 「本丸 東西四士間 南北六士 間」、二ノ丸…「森通、寺社… 「幸」、道…「江戸街道」、河川 …「ホソワカ川」、山…「八幡山」 「愛宕」	京都大学附属図書館DB-No.92-資料番号番号 0741047 (http://edb.kulib.kyoto- u.ac.jp/exhibit/ishin/kanren/doc/shoshi/00411 html)
8	〔奥州棚倉城絵 図〕(〇〇本「主 図合結記」所 載)	個人蔵	18世紀 中期カ	不明	不明	不明		軍学用	41に似る。	単色。 甲州出身の軍学者、山縣大武 (1725－67)の著とされる絵図集 成、「主図合結記」の写本の一つ か。	高橋信一「幕末の歴史と地域間交流」(第12回全 国グリーンツーリズムネットワーク福島大会 平成 25年11月14日分科会用レジュメ)		
9	奥州棚倉 (「福島県博本 「主図合結 記」?所載)	福島県立博 物館	内藤氏 時代	小笠原 時代カ	小笠原 時代	(枠)28.7 ×43.0、 (本 紙)27.0 ×40.3	本丸、二ノ 丸、城下、 寺社、道、 河川、山、	軍学用	一枚	本丸のみ間数を記す。 墨書が少ない。 東方向角を上部とする。 道＝黄、橋＝黒、土塁＝緑、堀・川＝青、台地 法面＝薄緑、新町・真町・馬場門前町＝ピンク	内題…「奥州棚倉」、本丸…「本 城 東西四士間 南北六士間」、 二ノ丸…「花畑」「北ノ丸」、三ノ 丸…「森、城下…「殿」、寺社 …「寺」「明神」「天神」、道… 「江戸街道」「水戸道」「奥州 道」、河川…「ソボワカ川」「大草 川」、山…「八幡山」「愛宕山」	棚倉町教育長室にラミネート加工した複写物あ り。	
10	同州棚倉 (「諸国城之圖 四」所載)	国立国会図 書館蔵	不明	不明	不明	東西 27.4cm ×南北 41.2cm	本丸、二ノ 丸、城下、 寺社、道、 河川、山、	軍学用	鋪	41に似る。 墨書が少ない。 本丸のみ間数を記す。 安養寺を「安養寺」と誤記。 東方向角を上部とする。	彩色。表題は内題より。 「諸国城之図」全8巻117面のうち の一つで、新巻第8面、同図は成 立年・来歴ともに不明。	内題…「同州棚倉」、本丸…「本 丸 東西四士間 南北六士間」、 二ノ丸…「花畑」、城下…「殿」、 「水」「ロク」、寺社…「寺」「明 神」「天神」、道…「江戸街道」 「水戸道」「奥州道」「安養寺ト云 山幸ノ道」「五ヶノ坂ト云」、河川 …「ソボワカ川」「大草川ト云」 「家中町々へ掛ル小川也」、山 …「八幡宮」「愛宕山」	国立国会図書館ホームページ内デジタルコレク ション
11	陸奥棚倉	(ヤフーオーク ション出品)	不明	不明	不明	不明			鋪	全て不明。ヤフーオークション出品 時にコピーを収集したのみ。			
12	陸奥棚倉 (「日本城郭史 資料」所載、棚 倉城絵図)	国立国会図 書館蔵	不明	昭和8年 (1933) ～同20 年 (1945) 号	不明	東西 26.5cm ×南北 41.0cm	城・城下・河 川・山・寺社	陸軍の 調査	鋪	41に似る。 墨書が少ない。 本丸のみ間数を記す。 安養寺を「安養寺」と誤記。 平場を黄色、土居を黒色、山林を緑色、町家を赤 色でそれぞれ表現。	本丸…「南北六十間」「東西四 十間」、三ノ丸…「森」 二ノ丸…「北丸」「花畑」、河川 …「クホヤカ川」「大草川」、街道 …「水戸道」「江戸街道」「奥州 海道」「五ヶ坂」、寺社…「安養 寺」「八幡山」「アタゴ山」「馬場 寺」「浄土寺」「観音院」「安養 近津大明神大社」「光徳寺 菩提 所」「所ノ氏神」「宇加大明神」 「墓跡」、道…「水戸街道」「奥 海道」「市坂」「石ナ坂」、河川… 「ソボワカ川」「本草川」「ヒネキ 川」、地名…「子コヤ」「関口」 「ソボワカ村」「チカイ村」、その 他…「センカイ口塚」、「古城 山」。	中井均「本邦築城史編纂委員会」『日本城郭史 資料』について—敗戦前の城郭研究史を理解する ために—(『中世城郭研究』第7号、1993年)	

13	陸奥棚倉城 （『日本城郭史 資料』所載、棚 倉城絵図）	国立国会図 書館蔵	内藤氏 時代	昭和8年 （1933） ～同20 年 （1945） 写	内藤氏 時代	東西 25.0cm ×南北 38.6cm	城・城下・河 川・山・寺社	陸奥の 調査	鋪	41に似る。 川と堀を青色、道と平場を黒 色、山林と本丸以外の土居を緑色、町家を赤色 でそれぞれ表現。	鉛筆書きによる写し。 色鉛筆彩色。	本丸…「大木アリ」「エノハシ」、 二ノ丸…「大木」「ホリノハタ」に大 杉アリ」「大エコヤ」「北二門」 「北ノ丸」「クラ」、三ノ丸…「林曲 輪」、城下…「新町」「隠匠町」 「アシカル丁」「フロヤ」「猿引」 「カワタ」、寺社…「蓮家寺」「浄 相寺」「浄土寺」「観音院」「安養 寺」「八幡山」「アタゴ山」「馬場 近津大明神大社」「光徳寺菩提 所」「所ノ氏神」「宇加大明神」 「漢師」、道…「水戸街道」「奥 海道」「市坂」「石ナ坂」、河川… 「ソボウカ川」「本草川」「ヒノキ 川」、地名…「子コヤ」「関口」 「ソボウカ村」「チカイ村」、その 他…「センカイ口塚」、「古城 山」。	中井均「本邦築城史編纂委員会」『日本城郭史 資料』について—攻城前の城郭研究史を理解する ために—（『中世城郭研究』第7号、1993年）
14	（棚倉城絵図）	不明	不明	不明	不明	不明		不明		全て不明。コピーのみ発見した が、原史料の情報なし。			
15	棚倉城下絵図	町内個人	天明3年 （1783）以 前	不明	江戸時 代	不明	城下			伊野新町・古町の道路の様子が詳しい。本戸と 番所あり。	宇賀**と番倉の間に市坂、赤箱の 南に根小屋村（天明3年～1783-七 村）の記載からそれ以前のものが。 堀川観音。	『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』（棚倉 町教育委員会社会教育課、1980）内図版4。	
16	棚倉城内絵図	町内個人	江戸時 代末	江戸時 代末以 降		不明	外堀		鋪	内堀を省略。本丸御殿の周囲を雲形で表現。新 町南木戸より南側に棚倉城が配置される図。道 路の中央に水路。		『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』（棚倉 町教育委員会社会教育課、1980）内図版6。	
17	棚倉城周辺絵 図	町内個人	18～19 世紀頃	18～19 世紀頃 以降		不明	城内 城下		鋪	本丸を省略し二ノ丸以下を描く。馬場通りに五ヶ 坂があり妙徳寺が描かれる。		『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』（棚倉 町教育委員会社会教育課、1980）内図版3。 『棚倉町史』第1巻（1982）p318に図版掲載。	
18	延享三年松平 右近様御代之 絵図 （棚倉城下絵 図）	町内個人	延享3年 （1746）	延享3年 （1746）以 降	小笠原 長恭	不明	城下	城引渡し に関係 か	鋪	本丸を省略し二ノ丸以下を描く。寺社の位置が 記される。赤箱下に「根小屋」あり。	昭和年間（に）写したもの。	『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』（棚倉 町教育委員会社会教育課、1980）内図版1。 藤田重一「棚倉城跡」（『城を守るもの 堀と土塁— 城絵図の考古学—』第4回北日本近世城郭検討 会、2005）内表-2。	
19	陸奥国棚倉城 下町絵図	棚倉町教育 委員会	不明	不明	不明	東西 141.1cm ×南北 193.9cm	城下町、町 民の名前	町人地 の把握 か	鋪	城郭・武家地が省略されている。 町人の名前記載有り。	記載された町民の名から、年代判 別可能。	『延享三寅年右近様』御「」所 へ上ル、是ハ土丸「」御引渡被 成候由	
20	（棚倉城下町絵 図）	井上家文書	延享4年 （1747）	延享3年 （1746）以 降	小笠原 長恭	不明	城下町、町 民の名前	町人地 の把握 か	鋪	景観年代は、書かれている町民の 名前から、幕末頃か。 貼り紙に内題が書かれているが、 判読できず。	「延享四年卯年 小笠原土丸」] 町「」差上申候 新町古町「 北「」」]	『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』（棚倉 町教育委員会社会教育課、1980）内図版7。	
21	（棚倉城下町絵 図）	井上家文書	不明	不明	不明	不明	城下町	不明	鋪	町史編纂時に撮影した写真のネガ フィルム中にあったもの。 原本所在不明。			

22	曙城圖棚倉図 (写)	棚倉町教育委員会	江戸後期	昭和年間	松井松平氏	東西65.5cm ×南北136.0cm	城郭 武家地 南茶屋	武家地 管理	鋪	武家地を詳述し、 <u>屋敷主である藩士の名を記す</u> 。 町入地を省略。南茶屋を描く。	史料番号41。原本ではなく昭和年間の写し。原図は浅野純一氏(浅野忠太氏父・埼玉県川越市住・故人)蔵。香中屋敷の屋敷主名が松井松平家分限帳により、ら。「松井松平家分限帳」により、香中屋敷主が判明する。山田茂氏等による、屋敷主名の翻刻あり。	「原図 浅野純一」 外簡題箋「松平周防藩時代棚倉図」。		山田茂「(棚倉町図書館郷土資料コーナー)に写本あり)」
23	慶応二年奥州棚倉之図	棚倉町教育委員会	慶応2年(1866)	慶応2年(1866)	松井松平氏	東西93.5cm ×南北131.0cm	城郭 武家地 南茶屋	武家地 管理	鋪	武家地を省略。南茶屋を描く。町入地を省略。	旧浅野忠太氏蔵(埼玉県川越市)。2012年12月に浅野家より寄贈されたばかりの新出史料。最寛年代は、絵図外題より。	『棚倉城Ⅰ』		
24	棚倉城絵図(複写)	(有)吉田電気工業所(棚倉町南町5-27)	不明	不明	不明	不明		武家地 管理		武家地を詳述し、 <u>敷地坪数を記す</u> 。町入地を省略。	所蔵者が、平成初年時代に棚倉町内の意識さん・大山マサノブさんと3人で、旧表郷村の人物よりコピーしたもの。			
25	棚倉中古之図	井上家文書	江戸後期	明治24年3月15日写	明治	不明	城郭 武家地 南茶屋	武家地 管理	鋪	武家地を詳述し、敷地坪数を記す。町入地を省略。	『沿革私考』所載図の元図か。原本未確認。棚倉町文化センターにモノクロ複写あり。			
26	棚倉城外地割絵図	福島県立図書館蔵	明治初期	明治初期	明治	東西74.0cm ×南北133.0cm	城下地割	地番 管理	鋪	武家地を詳述し、旧家中屋敷地の地番を記す。町入地を省略。南茶屋を描く。「鶴城」および「学校」あり。年代わかるか？岩崎興行がこの位置にあった時期→(沿革)学校(伊野上校)は沿革の棚倉小学校の記念誌をみれば集まっている。明治5年12月あたりが上限。一学校がたった？要確認。				
27	〔輯装〕旧棚倉町地図	棚倉町教育委員会	明治7年(1873)頃	明治7年(1873)以降	明治	84.5cm ×172.0cm(全体) 東西72.5cm ×南北128.5cm(本紙)	城郭 武家地 南茶屋	地番 管理	軸	武家地を詳述し、旧家中屋敷地の地番を記す。町入地を省略。南茶屋を描く。	旧生方家蔵。輯装。「本城跡」の記述より、慶応4年(1868)の花屋戦争以後のもの。新町原の地所に「女学校」「学校」の記載あることから、明治7年以降か。	『棚倉町史史料編第6号 ふるさとの絵図』(棚倉町教育委員会社会教育課、1980)内図版5。 藤田直一「棚倉城跡(旧城を守るもの 堀と土塁-城絵図の考古学-」第4回北日本近世城郭検討会、2005)内表-5。同論文に図版掲載。		
28	奥州棚倉城図(「日本古名城絵図」所載)	国立国会図書館蔵	寛文(1661)～元禄(1703)以前	寛文(1661)～元禄(1703)頃？	内藤氏	東西28.3cm ×南北40.7cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)	軍学用	鋪	城郭のみを記載。奥州棚倉城之図(「杉山家伝来城郭図巻 第四帙」所載)(No.28)と酷似。	「日本古名城絵図」第13帙東山道之郷所載。 「日本古名城絵図」は旧鳥羽藩主福垣家旧蔵。全355面のうち。	国立国会図書館ホームページ内デジタルコレクション		
29	奥州棚倉城之図(「杉山家伝来城郭図巻 第四帙」所載)	東北大学付属図書館蔵 狩野文庫蔵	不明	不明	不明	東西30.8cm ×南北43.6cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)	軍学用	鋪	城郭のみを記載。奥州棚倉城図(「日本古名城絵図」所載)(No.27)と酷似。堀を水色、土居及び法面を緑色、石垣及び建物(の屋根を灰色で表現。	東北大学付属図書館蔵記架番号10-23649-89。 薄和紙5枚綴ぎ。帯状の和紙で綴ぎ目を補強。八つ折りで保管。名称は絵図裏面の外題から。外題下に「杉山」と不明の朱印(簡形)あり。	東北大学附属図書館HP		

30	御城絵図(棚倉城)	光西寺蔵(文書番号217)	天保7年(1836)～慶応2年(1866)	天保7年(1836)～慶応2年(1866)	松平周防・康・康圭・康泰・康英		城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)	補修 図	鋪	年代は松井松平家が棚倉藩主であった時期。原図は浅野純一氏(浅野忠太氏父・埼玉県川越市住・故人)蔵。香中屋敷の屋敷主名が松井松平家分限帳により、ら。「松井松平家分限帳」により、香中屋敷主が判明する。山田茂氏等による、屋敷主名の翻刻あり。				『光西寺松井家文書目録』No.144。 白峰和「天保7年の陸奥国棚倉城跡は西りについて」(『別府大学大学院紀要』8、2006年) 『松平周防守と川越藩』(川越市立博物館第3回企画展図録、1997年) 金子誠三他監修『図説白河の歴史』(郷土出版社、2000年)
31	陸奥國棚倉城土居前之寛	東北大学付属図書館蔵 狩野文庫蔵	弘化2年(1845)10月	弘化2年(1845)10月	松平康勝	東西82.2cm ×南北109.0cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)	補修 図	鋪	城郭のみを記載。水堀に接する切岸(土塁)下部の前落が所全10ヶ所を未で示す。補修願いに使用された図の控えか。	「松平周防守 印 書判」			『展覧目録第90号 城に関する図書展目録』(展示当日配布された展示品目録)。後に、『東北大学図書館展示目録』(東北大学附属図書館、1968)に再録。
32	棚倉城郭絵図	福島県立図書館蔵	慶応4年(1868)以降	慶応4年(1868)以降	明治初期	東西26.0cm ×南北40.0cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)	軍学用	鋪	資料番号100149814。 請求記号L526.2/72/1。 慶応4年(1868)の戊辰戦争以後のものか。	「東西百九拾七間、南北貳百四拾四間半、土居高サ三間ヨリ一間迄、堀間三拾七間ヨリ六間迄」「本丸二十九拾六坪、二ノ丸道手門南門北門内一万八千二百拾九坪、垣土居口堀共除之」			『近世ふくしまの大名展-福島藩板倉氏資料を中心として-』(福島県歴史資料館、2000年)内22p。 藤田直一「棚倉城跡(旧城を守るもの 堀と土塁-城絵図の考古学-」第4回北日本近世城郭検討会、2005)内表-4。
33	御内見分之前御道防絵図(「阿部家文書」・新町上使旅宿から城内まで)	学習院大学史料館蔵	慶応3年(1867)年	慶応3年(1867)年	松平→阿部正静	64.0cm ×86.8cm	城郭(本丸、二ノ丸、三ノ丸)、城下(古町・新町まで)	城引渡し	鋪	表題は題箋より。包紙とも、包紙上書き「御内見分之前御道防絵図」。和紙4枚貼り綴ぎ。裏打ち済み。	「町役所」「大砲置場」			『阿部家文書目録』62-9
34	御着之節御道防絵図(「阿部家文書」・新町上使旅宿から城内まで)	学習院大学史料館蔵	慶応3年(1867)年	慶応3年(1867)年	松平→阿部正静	東西63.4cm ×南北107.4cm	新町の北木戸～南木戸まで	城引渡し	鋪	表題は題箋より。包紙とも、包紙上書き「御着之節御道防絵図」。和紙4枚貼り綴ぎ。裏打ち済み。				『阿部家文書目録』62-4
35	双方人数立場絵図(「阿部家文書」・古町・追手・本丸まで)	学習院大学史料館蔵	慶応3年(1867)年	慶応3年(1867)年	松平→阿部正静	64.6cm ×70.4cm	古町・追手・本丸まで	城引渡し	鋪	表題は題箋より。包紙とも、包紙上書き「双方人数立場絵図」。和紙4枚貼り綴ぎ。付箋○枚貼り付け。付箋の一部が裏返り、固着。				『阿部家文書目録』62-5
36	棚倉城城請取渡当日御着座之間并出役之図(「阿部家文書」・本丸御殿配置図)	学習院大学史料館蔵	慶応3年(1867)年	慶応3年(1867)年	松平→阿部正静	63.5 ×86.5cm	本丸御殿内部屋の配置	城引渡し	鋪	表題は題箋より。包紙とも、包紙上書き「棚倉城請取渡当日御着座之間并出役之図」。和紙4枚貼り綴ぎ。付箋○枚貼り付け。付箋の一部が裏返り、固着。				『阿部家文書目録』62-6-1

37	棚倉御城御引渡御当日図 （『阿部家文書』、本丸御殿の一部）	学習院大学 史料館蔵	慶応3年 （1867年）	慶応3年 （1867年）	松平→ 阿部正 静	32.2cm ×43.9	大広間から 御書院まで	城引渡し 鋪		着座場所が赤色三角形で表示。	表題は内題より。 包紙上書き「棚倉城請 取渡当日御着座之間并出役之 図」。付箋8枚貼り付け。	『阿部家文書目録』62-7
38	棚倉御城御引渡御当日図 （『阿部家文書』、古町・追手・本丸まで人敷立場絵図）	学習院大学 史料館蔵	慶応3年 （1867年）	慶応3年 （1867年）	松平→ 阿部正 静	31.9cm ×42.6cm	古町・追手・ 本丸まで	城引渡し 鋪		御供の待機場所について表示。追手門の蔵戸なし。追手枳形内の左右に樹木が描かれる。橋の表示が雑。曲輪内に通用門の表現あり。	表題は内題より。 包紙なし。	『阿部家文書目録』62-8
39	棚倉城下絵図 （株）忠敬堂		慶応3年 （1867年）カ	慶応3年 （1867年）カ		不明	城郭（本丸・二ノ丸・三ノ丸）、城下（古町・新町まで）	城引渡し か 鋪	25fに酷似。 黒墨単色。	（株）忠敬堂（北区田端1-20-21）の商品カタログに掲載していたもの。 町史編纂時に撮影写真し、ネガフィルムが現存。 旧井上光一氏蔵か、「阿部家文書」中の堀引渡し時の作成絵図を写したもので、或いは控えか。	（株）忠敬堂（北区田端1-20-21）の商品カタログ （年不詳）	
40	棚倉城絵図 三唐文化研究所		不明	不明	不明	不明	不明	不明			古川敏夫『棚倉城の本丸復元について-復元の概要と考察-』（日本建築研究所、1999年）内掲載表-24。	
41	棚倉（陸奥） （『諸国城図坤』所載）	東京大学史料編纂所	不明	原本作成年代 不明。 大正9年（1920）影写本。	不明	東西35cm× 南北48cm	不明	不明			書目ID: 00001068、請求記号: 3064-1。 『諸国城図』は乾坤2冊あり、144城分を掲載。原本は空原重氏（新潟県中頸城郡湯沢町）所蔵。	東京大学史料編纂所HP。
42	（棚倉城図） （『諸国居城図』所載）	前田育徳会 尊経閣文庫（目黒）	不明	不明	不明	不明	不明	軍学用			軍学系	前田育徳会尊経閣文庫編『諸国居城図』（新人物往来社、2000年）
43	（『陸奥能備笠』所載絵図）	福島県立図書館蔵	享和3年（1803） 閏1月	享和3年（1803） 閏1月		不明				二ノ丸と城下の一部を描き、本丸までは立ち入っていない。	『陸奥能備笠』は、長岡藩主牧野氏の命で藩士二名（長沢・柳町）が陸奥諸国を調査した際の旅日記。	
44	（東白川郡公基私考所載絵図）	棚倉町図書館	明治30年代	明治30年代		不明		研究	状		石井可及による。	
45	福島県棚倉町真景	棚倉町教育委員会	大正15年（1926）	大正15年	大正時代			宣伝用 観光用	銅版印刷、 一枚	鳥瞰図。	松井天山写生。銅版印刷。	
46	棚倉城図 （『日本城郭史資料』所載、棚倉城縄張り図）	国立国会図書館蔵	昭和8年（1933） ～同20年（1945）	昭和8年（1933） ～同20年（1945）	戦前～戦中	35.8cm× 42.5cm	本丸。 本丸土塁の断面図。	陸軍の調査		縄張り図。 堀を青色、本丸土居斜面を緑のケバ線、本丸土居の二段目斜面と、本丸堀の斜面を茶色のケバ線それぞれ表現。 現在は失われた本丸北東部土塁が記載されている。	陸軍省築城部作成。「陸軍」の野紙を使用。 1000分の1スケールの縄張り図。 鉛筆書き。色鉛筆彩色。	中井均「本邦築城史編纂委員会と『日本城郭史資料』について-収載前の城郭研究を理解するために-」（『中世城郭研究』第7号、1993年）



第 1 2 図 慶応二年奥州棚倉城之図